

## 18. 広域的な幹線道路網の整備の促進 及び連絡調整に関すること

主管：地域振興課

### 経緯

木曾地域における幹線道路網の整備については、平成元年度に策定された「第一次木曾地域振興構想」において「木曾地域交通ネットワーク構想」が掲げられ、基本的な方向づけがなされている。

平成7年に作成された「木曾地域道路網構想調査」の基本構想では、木曾川右岸道路を中津川市から塩尻市まで国道19号と並行して走らせるという目標を掲げており、現在の木曾地域振興構想にも引き継がれ、さらなる推進と具現化が図られてきている。

木曾川右岸道路は、上松・南木曾区間の約30kmが平成21年2月に一般県道上松南木曾線として認定された。平成29年現在、上松区間の約11kmが供用開始されており、大桑・南木曾区間の残り約22kmの整備が進められている。

平成18年2月には、国道361号の高規格道路「伊那木曾連絡道路」が開通し、伊那と木曾が直接結ばれ、所要時間30分で通年通行が可能となり、利便性の向上に伴い様々な圏域交流が始まった。また、平成19年3月には、木曾地域交通網対策協議会が設立され、数ある道路整備の期成同盟会を統括し、道路整備の推進を行なっている。

### 現状と課題

急峻な谷間に集落の点在する木曾地域の主な交通網は、南北を貫く「国道19号」と東西に貫く「国道256号」、「国道361号」がある。

これらの路線は、産業活動や地域の生活を支える重要な社会基盤であり、大規模災害等の発生時には、いずれも第1次緊急輸送路となる重要な幹線道路である。

#### 1 国道19号

**現状** 国道19号は、物流や産業・観光・文化を支え、地域住民の生活道路また観光客のアクセス道路として最も重要な社会基盤であり、大規模災害等の発生時には、第1次緊急輸送路としても極めて重要な役割を担っている。

**課題** 道路周辺の地形・地質等から、異常気象や地震時に予測不可能な土砂崩れ・道路決壊の災害が発生する恐れがあり、連続雨量が150～170mmの規制値に達した場合には通行止めとなる区間が2箇所もある。国道19号の閉鎖は地域の経済産業、住民生活及び緊急医療活動に多大な影響を与えるものである。

また、国道19号の代替道路として機能する木曾川右岸道路についても、木曾郡民をはじめとした道路利用者の安全と利便性を確保するため、環境保護に配慮した上での早期の全線開通が期待されている。

#### 2 国道256号

**現状** 急勾配と急カーブが続き、大型車のすれ違い困難な場所もある国道256号は、木曾・南信州の地域経済を支え、地域の活性化を図る道路としての役割を担っている一方、観光のアクセス道路としても重要性が高まってきている。

**課題** 2027年の開業が予定されているリニア中央新幹線の間駅となる長野県

駅（飯田市）と岐阜県駅（中津川市）を結ぶ観光道路・アクセス道路となることから、開業に合わせその機能強化を欠かすことができない重要な幹線道路である。

### 3 国道 361 号

**現状** 国道 361 号は、東海北陸自動車道から中部縦貫自動車道を経て、中央自動車道に接続し、首都圏及び中京圏と信州、飛騨、北陸圏を結ぶ最短路線であり、広域的なアクセスとネットワークを形成する重要な役割を果たす幹線道路として重要度が増した路線である。

**課題** 木曾町開田高原九蔵峠区間は、急峻で幅員狭小、急屈折箇所、落石危険個所が連続するなど未改修部分が数多くあり、特に冬期間の降雪時には、雪崩や凍結による車両の立往生、スリップ事故など、大型観光バスや定期便、そして通勤通学車両などに大きな支障をきたしている。

## 今後の方針

木曾地域交通網対策協議会を中心に、より一層の国道 19 号の改良促進や木曾川右岸道路、国道 361 号・256 号の未整備区間の早期着工と主要地方道及び一般県道などを含めた広域道路ネットワークの整備、国道 19 号の雨量規制区間の解消など災害に強い、安心安全の道づくりを行う。

併せて、リニア中央新幹線等新たな交通網に対応した道路網構築についての総合的な検討を行う。

## 施策

- 1 広域道路ネットワークの整備促進
- 2 木曾地域の安心・安全な道路網整備が図られるように関係機関への更なる働きかけの展開